

令和7年度第1回 大阪市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会（会議要旨）

日時：令和8年1月30日（金）午後3時00分～午後5時00分

場所：大阪市役所地下1階 第11 共通会議室

議 事

- (1) 令和7年度大阪市における地域福祉にかかる実態調査結果について 資料1
- (2) 第3期大阪市地域福祉基本計画の進捗状況について（令和7年3月末時点） 資料2
- (3) 第4期大阪市地域福祉基本計画について（骨子） 資料3

【議事1】

- ・ 事務局から資料に沿って説明

（主な意見）

- ・ 18歳～40歳代の人たちがこれから地域社会において活躍してもらわないといけない人たちなので、回答が非常に少ないということ不安だ。若い人にもっと回答していただきたい。回答してくれた方に何か粗品やクオカードでも出していただければ回答率が上がるのではないかと思う。
- ・ 外国籍住民も普通に日本で暮らしておられるという観点も取組の中に盛り込んで行くべきではないか。
- ・ 世論調査の回答者は「地域福祉に関心のある人」と言えるので、その人たちの中で「地域福祉活動に参加している（現在も続けている）」が6.7%という結果をどう見ていくか。
- ・ 地域福祉活動に参加している人を通じて参加者を増やすという方法が現実的かつ効果的ではないか。

【議事2】

- ・ 事務局から資料に沿って説明

（主な意見）

- ・ 少子高齢による人口減少で、昔型の担い手が少なくなっている。自分の好きなことは「担い手感」がないため、そのようなことも含めて次期計画は検討していかないといけない。
- ・ 資料2-1の達成状況の評価について、評価が分かりやすくなるためには、項目数や項目の内容、評価の仕方を次回の改定時に検討したほうがよいのではないか。
- ・ 「時間がない」ということが参加できない理由だとすると、広報啓発はあまり実効性を持たない。住民の方も行政の方も、時間とリソースは限られているので、どこに力を入れていくかを考えた時に、「時間がないから参加できない」という人に対して、啓発回数を増やしたとしてもあまり結びついていかないのではないか。

- ・ 若い世代について、青少年指導委員など“入り口”になりやすい役割を用意し、そこでの頑張りを地域がきちんと称賛する地域でないといけない。若い担い手に対して「やって当たり前」という姿勢をとるのではなく、尊重することが必要。活動を強要するのではなく、「参加したい」と思ってもらえるような参加型でも良いと思う。先輩世代が受け入れ方や関わり方の工夫を伝えていくことで少しは変わっていくのではないかと思う。
- ・ 若い世代が求めていることに対して答えられることは何か、一緒に伴走できることは何かを考え、地道に向き合うことで「参加した人が次の人を連れてくる」流れも生まれると思う。

【議事3】

- ・ 事務局から資料に沿って説明

(主な意見)

- ・ 次期計画を3年計画から6年計画にするのはどうか。
- ・ 6年計画の場合、3年で一度中間的な評価をきちんとして次へ進むというステップが必要と思う。
- ・ 6年計画に強く反対するつもりはないが、基本はこのまま(3年計画)が良いと思う。今の地域福祉が政策化してきている中で、あえて3年でやってきたって理由の理由をしっかりともう一度考えた上で結論を出した方が良い。また、振り返りのスピードをアップさせないといけない。本当に推進に力を入れられるのであれば6年計画への変更には賛成。
- ・ 骨子案について、次期計画の策定のポイントの「本市の特徴を踏まえた施策の取組」というのは非常に重要であり、重点を置いて検討していただきたい。
- ・ 地域の担い手や若い層への参加支援について、地域に働きかけて居場所を作り、いろいろな話し合いができるような中で参加に繋がっていくというような仕組みがないと、なかなか難しい。
- ・ 学校や地域での福祉教育について、今の時代にあった「入りやすさ」を意識し、内容等を今の状況で考え、福祉教育そのものの取組を柱の一つとして欲しい。
- ・ 福祉人材について、福祉教育を担っていく人材づくりを進めていく上で、専門職の人たちが非常に重要となる。専門職の雇用条件や労働環境の課題についても、合わせて改善の取組をしてほしい。これは国全体の問題になると思うが、それに対しての様々な提言なども計画の中にあればよいと思う。
- ・ 小・中学生への働きかけ、とりわけ中学生向けの福祉教育をもう少し強化できないかと感じた。小学生の場合は保護者の関わりも必要になるが、中学生は自分で考えて行動できる年齢なので、ちょっとしたアドバイスや分かりやすい冊子があるだけでも理解や行動につながると思う。
- ・ 企業や学校(福祉系の専門学校や看護学校)とのつながりを広げていけないか。手伝いに入ってもらえる人材がいることは力になる。学生にとっても学習の機会となる。